

ECBは2会合連続で追加利下げを決定、インフレ下振れリスクに意識

- ECBは事前予想通り、2会合連続で0.25%ptの利下げを決定
- 景気失速懸念が強まり、インフレ下振れリスクに意識
- データ次第の政策姿勢は堅持も、利下げペースは加速か

■ ECBは2会合連続で、追加利下げを決定

欧州中央銀行(ECB)は17日、事前予想通り、全会一致で0.25%ptの追加利下げを決め、中銀預金金利を3.25%としました(図1)。声明文では、インフレ率や賃金上昇率は依然として高いとの見解は保ちつつも、インフレ鈍化は順調に進んでいるとの認識を示し、インフレ見通しは足元の経済指標の予想外の下振れにも影響されると指摘。物価目標(中期的に+2.0%)の到達時期を巡っては2025年中と、9月会合時に示された2025年後半からはやや前倒しされました。景気が弱含み、インフレ鈍化が過度に進む可能性が意識され、連続利下げを決定したとみられます。

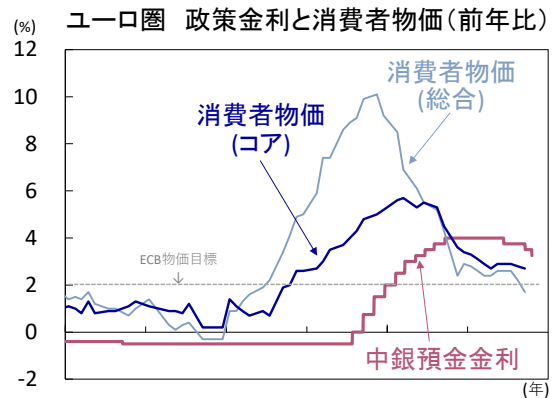
■ 経済・物価見通しを巡るリスクは下方へ

ラガルドECB総裁は、製造業の弱さが継続していることに加えて、好調だったサービス業も足元では伸びが鈍化していると指摘。信頼感の低迷により(図2)、消費や投資の回復が遅れる可能性に触れ、地政学的緊張や世界経済の低迷・貿易摩擦の激化等も加わり、引き続き経済見通しへのリスクは下方に傾いていると評価。依然景気後退は回避可能と期待も、不確実性への懸念は強まっている模様です。また、ラガルドECB総裁は記者会見で足元のインフレ鈍化は広範囲に亘り、本日公表予定のECB企業電話調査の結果の弱さもほのめかし、一層のインフレ鈍化への自信の強まりを覗かせました。インフレ見通しに関しても、低調な景況感や地政学リスク等を背景に下振れリスクが上振れリスク上回っていると認め、インフレ率が想定以上に減速するリスクを意識し始めた模様です。

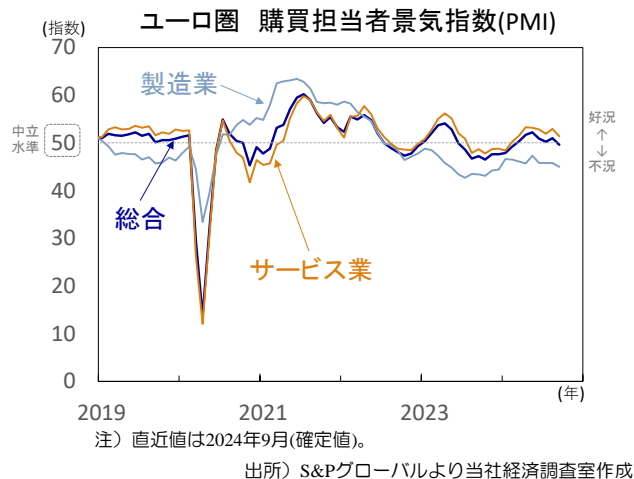
■ データ次第の姿勢は変わらずも、より速いペースで金融引き締めを解除へ

先行きの政策判断を巡っては、従来通りデータ次第の運営方針を堅持。しかし、10月会合では総じてハト派姿勢の強まりが確認されたことや、景況感・物価指標の急激な上昇が見込み難いことから、ECBの当面の利下げペースは、9月に想定された四半期毎に0.25%ptから会合毎に0.25%ptへと加速する可能性が高いみられます。経済が底堅さを維持する米国との利下げペースの差が改めて意識され、足元、対ドルで下落基調を強めるユーロ相場は(図3)、当面上値を圧迫される展開が続きそうです。(吉永)

【図1】 想定以上にインフレ鈍化は進み、ECBは2会合連続で追加利下げを決定



【図2】 景気減速懸念が強まり、インフレ鈍化が予想以上に速く進む可能性を意識



【図3】 米欧の利下げペースの差が改めて意識され、ユーロ安が進行



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘を使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会